

令和5・6年度始良・伊佐地区研究協力校（学力向上：ICT活用）

授業デザイン案集

自立した学び手を育てる学習指導の在り方 ー学び方の自己決定と振り返りの習慣化を通してー



I 日程

12:50 13:10 13:40 13:50 14:35 14:50 16:00 16:15 16:40

受付	全体会Ⅰ		移動・準備	公開授業	移動・準備	分科会			移動・準備	全体会Ⅱ	
	開会行事	研究発表		1年1組 国語科 4年1組 社会科 6年2組 算数科		授業研究	研究協議	指導助言		指導講話	閉会行事
20	10	20	10	45	15	55		15	15	20	5

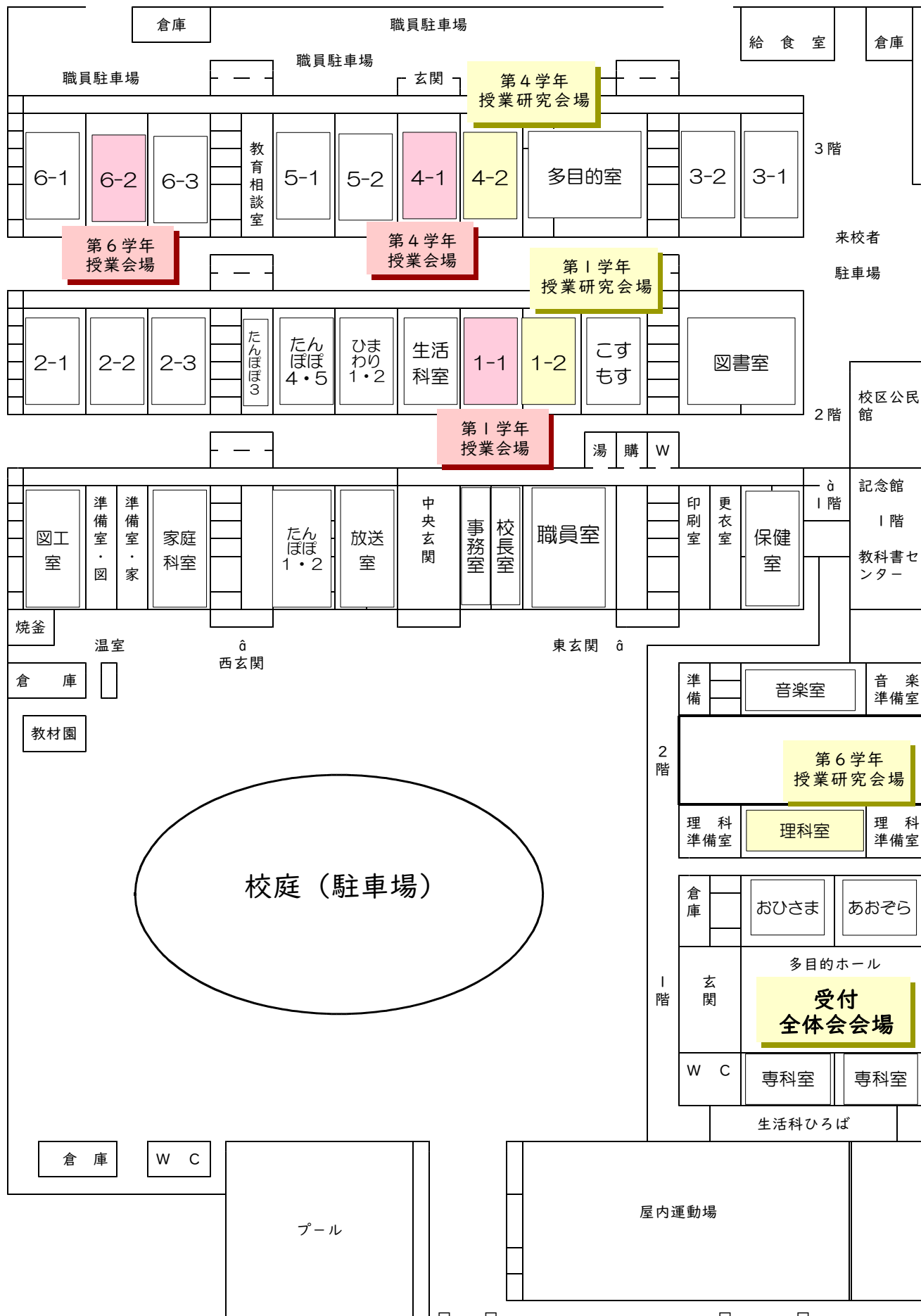
2 授業参観に当たって

- (1) 授業中に児童に話しかけることは御遠慮ください。
- (2) 児童の撮影については御遠慮ください。
 - ・ 教師の様子や板書、教材・教具等の撮影は可能です。
 - ・ 2次利用の際は御連絡ください。

令和7年2月13日（木）

始良市立柁城小学校

始良市立柁城小学校 会場案内図



授業デザイン案〔国語科〕

令和7年2月13日（木）5校時

I 組 28人

指導者 瀬戸口 有真

第1学年 単元名「くらべてよう」 （教材名「どうぶつの赤ちゃん」）

<単元の目標>

知識及び技能	共通、相違、事柄の順序など情報と情報の関係について理解することができる。 【(2)ア】
思考力、判断力、表現力等	時間や事柄の順序を考えながら内容の大体を捉えたことを基に、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。【C読むこと(I)ウ】
学びに向かう力、人間性等	二つの事柄を同じ観点(ポイント)で比較し、違いを考えながら読もうとしている。

<単元計画>

	主な学習内容	定着	深化
1	「どうぶつの赤ちゃんレポート」をつくる見通しをもつ。「どうぶつの赤ちゃん」を読み、感想を交流する。	○	
2	試しのレポートを書き、学習計画を立てる。	○	
3	生まれたばかりのライオン	○	
4	としまうまの赤ちゃんの様子を比べながら読む。		
5	ライオンとしまうまの赤ちゃんの成長の様子を比べながら読む。	○	
6			
7	「もっと よもう」を、ライオンとしまうまの赤ちゃん	○	○
8	と比べて読む。		
9	図鑑を読み、赤ちゃんレポートに書く動物を決める。		○
10	二つの動物を同じ観点(ポイント)で比較しながらレポートを書く。		○
11			
12	レポートを読み合い、学習の振り返りをする。	○	

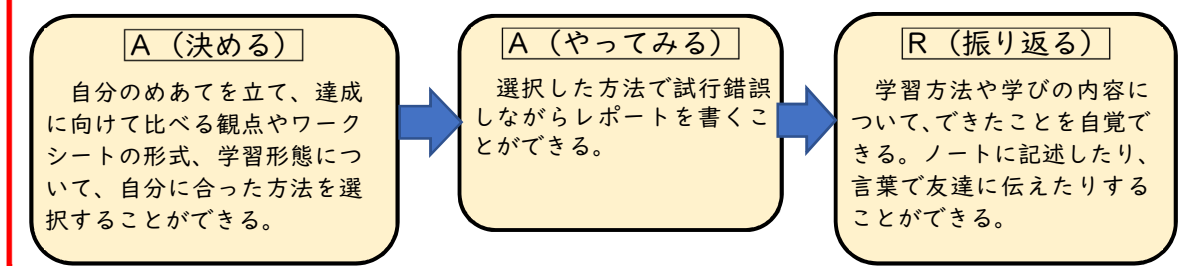
<本時の目標>

- 時間や事柄の順序を考えながら内容の大体を捉えたことを基に、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
【思考力、判断力、表現力等】
- 二つの事柄を同じ観点(ポイント)で比較し、違いを考えながら読もうとしている。
【学びに向かう力、人間性等】

定着…一定の目標を全ての児童が達成することを目指し、個々の児童に応じて異なる方法等で学習を進められるよう働きかけを工夫する。(指導の個別化)

深化…個々の児童の興味・関心に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げられるよう働きかけを工夫する。(学習の個性化)

<本時で期待する自立した学び手の姿>



<本時の実際>

アイコンの意味		「課題・めあて」 の選択・決定	「解決方法・考え方」 の選択・決定	「道具・活動」 の選択・決定	「学習形態・スタイル」 の選択・決定	「学習時間・ペース」 の選択・決定	ICTの活用
過 程 分		主な学習活動				教師の具体的な働きかけ	
決 め る (7)	1 学習課題を確認し、自分のめあてを決める。	ちがいがわかるように、二ひきをくらべながらどうぶつの赤ちゃんレポートをかこう。 ・ どんな違いがあるのかを見付けよう。 ・ 1匹の文章は、書き終わろう。 ・ レポートを最後まで書けるようにしたいな。				○ 学習計画表や教師のモデル文を確認することで、本時の活動の見通しをもつことができるようにする。	○ 言葉による見方・考え方を働かせながら学習を進められるよう、比べる観点到に着目して違いを見付けていくよう働きかける。
	2 学習を進める。						
や っ て み る (28)	(1) 全体でレポートの書き方(条件)を確認する。	○ 自分のめあてを基に、「できたこと」の観点で振り返り、「なぜレポートを書くことができたのか。」「誰とどのように学習すると解決できたのか。」と教師が問うことで、レポートの書き方や友達と一緒に学習することのよさに気付くことができるようにする。					
振 り 返 る (10)	(2) レポートを書く。		三つのポイントで比べることができました。 一匹分は、書けました。次は、完成させたいです。 ○○さんに教えてもらって、うさぎの赤ちゃんの目や耳の様子が分かりました。 次は、一人でも学習できるかチャレンジしてみたいです。 インターネットでは、自分でえさをとる時期がよく分かりませんでした。次は図書館の本を読んでみたいです。				
	3 本時の学習内容と自分の学び方を振り返る。						
評 価	【観点】 ○ 時間や事柄の順序を考えながら内容の大体を捉えたことを基に、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができたか。 ○ 二つの事柄を同じ観点（ポイント）で比較し、違いを考えながら読もうとしていたか。 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】 【方法】ワークシート・発言						

授業デザイン案〔社会科〕

令和7年2月13日（木）5校時

I組 34人

指導者 中江 太郎

第4学年 単元名「美しい景観やまちなみを生かすまち」

<単元の目標>

知識及び技能	地図や資料を活用したり、インターネットを活用したりして必要な情報を集め、読み取ることで、鹿児島県の特色ある地域の様子を理解することができる。
思考力、表現力等、判断力	鹿児島県の特色ある自然環境や人々の活動、産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して地域の様子を捉え、それらの特色を考え、適切に表現することができる。
学びに向かう力、人間性等	鹿児島県の特色ある地域の様子について関心をもち、予想や学習計画を立てたり見直したりして、主体的に問題を追究し、解決することを通して鹿児島県の地域の特色やよさを考えようとしている。

<単元計画>

	主な学習内容	定着	深化
①	多様な資源を生かしたまちづくりの確認と個人テーマの設定	○	
2	個人テーマに対する追究活動	○	○
3	個人テーマに対する追究活動	○	○
4	個人テーマに対する追究活動	○	○
5	個人テーマに対する追究活動	○	○
6	調べたことを紹介し合う	○	○

定着… 一定の目標を全ての児童が達成することを目指し、個々の児童に応じて異なる方法等で学習を進められるよう働きかけを工夫する。（指導の個別化）

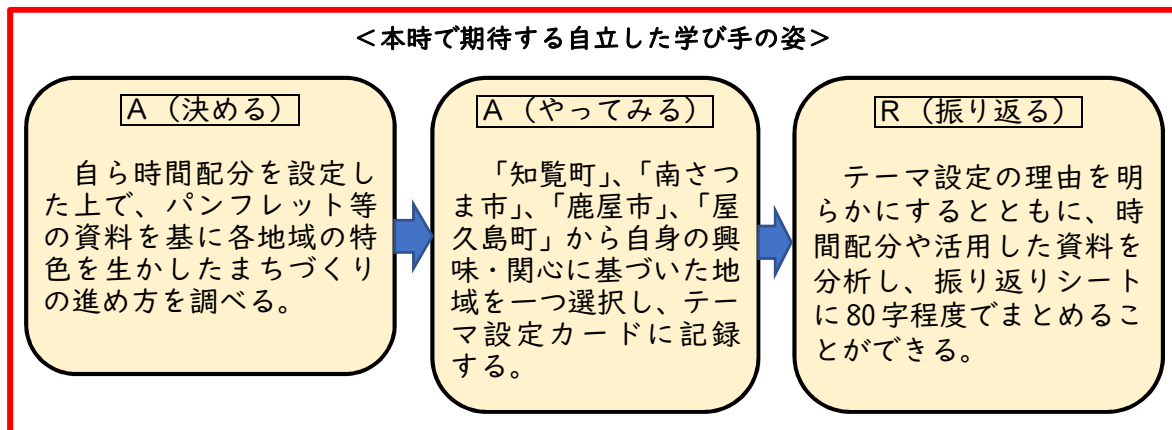
深化… 個々の児童の興味・関心に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げられるよう働きかけを工夫する。（学習の個性化）

<本時の目標>

- 指定された4つのまちについて、ポスターなどの資料からそれぞれのまちが発信しようとしている特色を捉えることができる。【知識及び技能】
- 県内の特色ある様々な地域から興味・関心をもった地域を一つ設定し、その特色に着目して自分が選んだ理由を説明することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

<本時で期待する自立した学び手の姿>



< 本時の実際 >

アイコン の意味	「課題・めあて」 の選択・決定	「解決方法・考え方」 の選択・決定	「道具・活動」 の選択・決定	「学習形態・スタイル」 の選択・決定	「学習時間・ペース」 の選択・決定	ICT の活用
過 程 分	主な学習活動				教師の具体的な働きかけ	
決 め る (10)	1 市役所職員からの紹介動画を視聴する。 (依頼内容) 県が指定する4つのまちについて、 その魅力を調べまとめてほしい。 2 学習のめあてを確認する。 資料を参考にして調べたいまちを決めよう。				○ 紹介動画の視聴を通して 追究の目的を明確にすると ともに、単元のゴールイメ ージをもつことができるよう にする。 ○ 児童の言葉から学習のめ あてを設定する。	
や っ て み る (25)	3 学習の見通しをもつ。 4 資料を基に、対象となるまちがそれぞれ発 信しようとしている魅力について調べる。 【資料】 ・ わたしたちの鹿児島県 ・ ポスター、ゆるキャラ 【形態】 ・ 一人で ・ 友達と ・ グループで 5 これから調べていきたいことを基に、個人 テーマを決定する 知覧では、歴史的なまちなみをどの ようにまちづくりに生かしている のかな。 鹿屋市では、豊 かな食文化をどの ようにまちづくりに 生かしているの かな。 南さつま市で は、吹上浜の砂丘 をどのようにまち づくりに生かして いるのかな。 屋久島では、豊 かな自然をどのよ うにまちづくりに 生かしているのか な。				○ テーマ設定カード記入に かかる時間から逆算し、活動 時間を児童と共に設定する。 ○ 資料は児童が自由に活用 できるようにロイロノート で配布しておく。 ○ 気付いたことはロイロノ ートの資料上やテキストに メモを取るよう知らせる。 ○ 市町の選択理由が学習の ねらいから大きく外れるこ とのないように、机間指導を 行いながら、それぞれの特色 に着目できるよう個別の声 掛けを行う。 ○ 各市町の特色について、キ ーワードを全体で共有する。 ○ 今後の見通しをもたせる ため、テーマ設定カードに選 択した市町やその理由など を記入するよう促す。その 際、全体で確認した各市町の キーワードを想起させるよ うにする。	
振 り 返 る (10)	6 自分の学び方を振り返る。 7 次時の学習への見通しをもつ。				○ 本時における自分の活動 時間や学習形態、用いた資料 について 80 字程度で振り返 るようにする。	
評 価	【観点】 ○ 4つのまちについて、ポスターなどの資料からそれぞれのまちが発信しようとしている 特色を捉えることができる。 ○ 県内の特色ある様々な地域から興味・関心をもった地域を一つ設定し、その根拠を明らかに することができたか。 【方法】タブレットの記録 【知識・技能】 【思考・判断・表現】					

授業デザイン案〔算数科〕

令和7年2月13日（木）5校時

2 組

28 人

指導者

永井 秀樹

第6学年 単元名「算数で見つけた見方・考え方」

<単元の目標>

知識及び技能	- 既習事項を、9つの考え方を基に整理できる。 - 既習事項を活用することができる。
思考力、表現力等	9つの考え方を基に、既習事項を整理して考える力を養う。
学びに向かう力、人間性等	既習事項を9つの考え方を基に整理しようとする態度を養う。

<単元計画>

	主な学習内容	定着	深化
1	1つ分を作ると	○	○
2	まとめてみると	○	
3	別の表し方にすると	○	
④	そろえてみると	○	
5	分けてみると	○	○
6	数や形などを変えてみると	○	
7	きまりはあるのかな	○	
8	同じようにできないかな	○	○
9	どうしてそうなるのかな	○	○

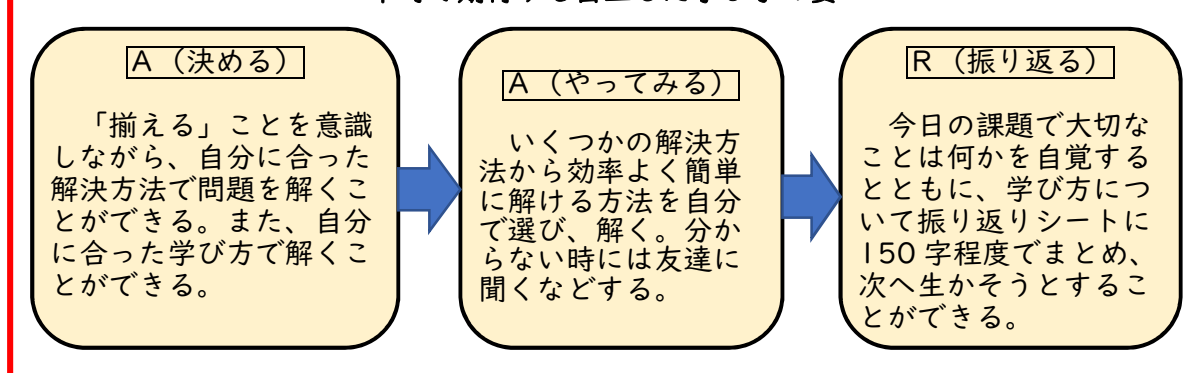
<本時の目標>

- 「揃えてみる」考え方がどのような場面で使われてきたか確認し、理解を深める。
【知識及び技能】
- 時間や道のりを基に速さを比べる方法を、既習事項を基にノートに書こうとしている。
【学びに向かう力、人間性等】

定着… 一定の目標を全ての児童が達成することを目指し、個々の児童に応じて異なる方法等で学習を進められるよう働きかけを工夫する。（指導の個別化）

深化… 個々の児童の興味・関心に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げられるよう働きかけを工夫する。（学習の個性化）

<本時で期待する自立した学び手の姿>



<本時の実際>

アイコン の意味	「課題・めあて」 の選択・決定	「解決方法・考え方」 の選択・決定	「道具・活動」 の選択・決定	「学習形態・スタイル」 の選択・決定	「学習時間・ペース」 の選択・決定	ICT の活用
過程(分)	主な学習活動				教師の具体的な働きかけ	
決める (15)	1 本時のキーワードを確認し、練習問題の答え合わせをする。 何をどのようにそろえるとよいだろうか。 (1) 数の位をそろえて計算する。 (2) 小数や分数にそろえて比べる。 2 学習課題を受け止める。 15 kmを8分で走る列車 A と 12 kmを7分で走る列車 B はどちらが速いでしょうか。 ・それぞれの速さ（分速）を求めれば比べられる。 列車 A : $15 \div 8 = 1.875$ 列車 B : $12 \div 7 = 1.714$ 列車 A : $15 \div 8 = \frac{15}{8} = \frac{105}{56}$ 列車 B : $12 \div 7 = \frac{12}{7} = \frac{96}{56}$ A. 列車 A の方が早い				○ 今日の数学的な「見方・考え方」が分かるように「見方・考え方モニター」を掲示する。 ○ 何を揃えているのか確認するようにする。 ○ 自力解決の時間を確保し、問題としっかりと向き合い、分からなければ友達に聞きに行くように促す。 ○ 速さの公式を使って解くこともできるが、計算が複雑になることに気付くように促す。 ○ 簡単に計算できる方法がないか考えるように促す。	
	3 学習問題を焦点化する。 分速（1分あたりに進む道のり）を比べる以外の方法はないのだろうか。 4 自分なりの方法を考え気付いたことを発表し合う。 【道のりをそろえる】 列車 A 道のり 0 — 15 (km) — 60 (km) 時間 0 — 8 (分) — □ (分) 列車 B 道のり 0 — 12 (km) — 60 (km) 時間 0 — 7 (分) — □ (分) 【時間をそろえる】 列車 A 道のり 0 — 15 (km) — □ (km) 時間 0 — 8 (分) — 56 (分) 列車 B 道のり 0 — 12 (km) — □ (km) 時間 0 — 7 (分) — 56 (分) 5 適用問題に取り組む。 ・自分でどの方法で解くか選択する。 ア 速さの公式（分速）を使う（黄） イ 最小公倍数で道のりを揃えて解く（青） ウ 最小公倍数で時間を揃えて解く（赤）				○ 自分で解く方法を選び、三色コップで意思表示を行う。その際、学級の友達が何色を選んでいるか確認する。 ○ 解き方が分からない児童には同じ色の友達に聞きに行くように促す。 ○ 分からなければすぐに聞くことを徹底し、積極的に学び合いができるように促す。 ○ 友達に聞いて分からなかった場合は、何が分からないか焦点化させ、三色コップで合図をするよう促す。児童の理解に応じて揃える数量や揃え方についてアドバイスし、自力で解決できるようにする。 ○ 共有ノートに自分の考えを言葉や図で整理し記入することで自分の考えを発表しやすくする。	

振り返る (5)	6 本時の学習の確認をする。 最小公倍数を使って道のりか時間をそろえ ると比べられる。 7 本時の学び方を振り返る。 ・ 振り返りカードに内容と学び方について記述する。 ・ 速さを比べるときは公式だけではなく、 最小公倍数を使うと求めることができる。 ・ 速さは1分あたりでそろえることができ るように、どれか一つをそろえると比べら れることが分かった。 ・ 今日は、友達と学び合いをしながら学習 した。分からないところも聞くことができ て良かった。 ・ 友達に分かりやすく教えることができ て理解がさらに深まった。	定 着	○ 適用問題でも最小公 倍数が使うことがで き、速さを求める以外 にも方法があることを 確認する。 ○ 振り返りでは何が分 かったのか自分の言葉 で記述できるように言 葉掛けをする。 ○ 本時における自分の 学び方について振り返 り、揃えることのよさ について150字程度で 振り返るようにする。 ○ 本時の内容について 今日の宅習などにも生 かしてくるように言葉 掛けをする。	
評価	【観点】 ○ 「揃えてみる」考え方がどのような場面で使われてきたか確認し、理解を深めることができたか。 ○ 時間や道のりを基に速さを比べる方法を、既習事項を基にノートやタブレットに書こうとしていたか。 【知識・技能】 【主体的に学習に取り組む態度】 【方法】ノート・振り返りシート・発言			